



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	図書館ニュース vol.31, no.1
Author(s)	東京学芸大学附属図書館
Citation	
Issue Date	2002-08-00
URL	http://hdl.handle.net/2309/60010
Publisher	東京学芸大学附属図書館
Rights	

図書館ニュース

Vol.31, No. 1(2002.8)

ローレンツ 『文明化した人間の八つの大罪』を読む

池田克紀

コンラート・ローレンツは1903年生まれのオーストリアの動物学者で、1973年にノーベル医学・生理学賞を受賞した動物行動学（エソロジー）の創始者である。動物の、種に固有な行動型の形成メカニズムを研究し、インプリンティング（刷り込み）の概念を唱えた。『文明化した人間の八つの大罪』以外の彼の著名な本としては『攻撃 悪の自然史』『鏡の背面』『人間性の解体』など数多くあるが、約30年前に書かれた本書は現代の我々が直面している問題を直視し、警告している。私の愛読書のひとつであるこの本について書きたい。

現代社会の際限の無い増殖、過当な競争と忙しさ、終わることの無い戦争、人間の虚弱化などについて、

これまでの生物の自然界への適応の結果得られた行動様式からは想像できない社会を作ってきた。ローレンツは本著を通して、文明の発展が、本来なら種を維持するために発揮すべき行動メカニズムの狂いが人類に生じ、その病的な狂いは、生物的システムの分析にとって克服しがたい障害をもたらしつつあることに警鐘を鳴らし、解決方法を伝えようとしている。ローレンツから見た現代の問題点をまとめ、その後、私なりの感想を述べたいと思う。

目次

ローレンツ 『文明化した人間の八つの大罪』を読む（池田克紀）	1
本との出会い：ある田舎読書人の話（小泉武栄）	4
本との出会い：『複合汚染』（中西史）	5
導入データベースガイド：電子ジャーナルの特徴とその利用法	6
お知らせコーナー	9
平成14年度後期図書館暦（10月～3月）	12

ローレンツの憂え

高度に文化の発展した人間の手を放れ、生活の多くの部分が自動化され、「本能」の衝動とはつながりがないように思える現代においても、本能による調節機能がシステムの正常な機能には不可欠である。文化も系統発生の一部であるとするならば、調節機構が混乱してしまうと、社会システム全体が混乱し、危うくなる。適応と自然淘汰による系統発生によるものと文化によるものが調和的に働いてこそ初めて、人間の正常なシステムを維持することができるとする。

ローレンツは、人間の文明化による問題の第一に人口過剰を取り上げている。自分のまわりの自然に対する人間の深い洞察から生じた成果、つまり科学技術や医学の進歩は、すべて一見人間の不幸を減らすように思われる。だが人類を絶滅させる効果をも発揮する。人口の過剰である。癌細胞は自分の仲間を増やそうと必死に増殖する。同様に、地球上に生活する我々人類がますます増え続け、我々自身が究極の進歩だと思いきみながら人類の破局への道を一気に突っ走っている有様に等しい。人口が過剰になると、人間特有の特性や能力が失われていく。人間愛の欠乏や無関心という現象が起きる。命を救うべき医学や科学の発達人間性の破壊、人類の破滅につながっていきつつある。

人間の生態は、ほかのあらゆる生物の生態に比べて、何倍もの速さで変化する。だから、人間は自分がその中で、それに頼って生きている生物共同体を根本的に変えたり、全面的に崩壊させてきた。文明人は自分を取り巻いている自然、自分を養っている生きた自然を荒廃させ、自らを生態学的に崩壊させる恐れがある。地球の温暖化など地球環境の荒廃が始まっている。

人間どうしの競争は際限も無く続いている。同一種の競争は淘汰をつうじて種の進化に影響を及ぼす。今日生きている人間の大多数は、もはや、隣人を越えようとする無慈悲な競争において、有効かつ適切なものにしか価値がないと感じている。人間どうしの競争は、人間の欲望を高め、不安を高める。不安は、現代人の健康を脅かす。人間の最も重要な性質である「反省」を忘れさせ、抽象的な思考や言語や意識や責任あるモラルを発達させることができないと断言する。

快を求め、不快を避ける本能的な衝動が余りに充足されてしまうことは、決して良いことではない。不

快をもたらすあらゆる刺激を避ければ、危険で、しかもおそらくしばしば文化の衰退につうじる虚弱化が引き起こされるからである。不快を解発するあらゆる刺激に敏感になり、快を解発する刺激にますます鈍くなる方向にあり、その結果、後にならなければ得られそうもない仕事に励めなくなってきた。虚弱化と感性の衰滅に対抗する手段は何かといえば、人為的にもたらされた意識的な生活の重みの克服ではなく、自然に与えられた様々な障害を克服する喜びと成功からのみである。

人間の遺伝的頹廢が起こっているともいう。遺伝的頹廢をもたらすものに、「反社会性」や「社会的な行動様式の荒廃」、筋肉の軟弱化や脂肪沈着をもたらす人間の「家畜化現象」、不快に耐えられない性質、直ちに衝動を満足させようとする性急な欲求、個人的な責任の欠除や他人の感情に対する配慮の無さの特徴をもつ「幼児化」などがあるとする。

人間は、自由な記号をつくり出す能力によって抽象的に考え、言語を用いることをつうじて、個体が獲得した知識をひろめ伝えることができる。文化には、動物の種がもっているのと同じくらい多くの淘汰によって獲得してきた知識が含まれている。ローレンツによると、文明化によって親子の、また家庭内の接触の機会が減少し、少子化により家庭内の順位構造も消え、自然な形で家族のメンバーを結びつけていた人間愛が小さくなる。その結果、伝統の破壊が起こる。人間は、ある人を心の底から深く愛し同時に尊敬した時、初めて、文化的な伝統を自分のものとして、受け継ぐことができるからである。

人間を際限なく条件づけできることがきわめて望ましい、と考えている人がいる。人間性の喪失に寄与するあらゆる現象は、大衆をうまく操作できるという点できわめて好都合であっても、種としての人間全体にとっては望ましくない。人々はマスメディアにより同じように考え、同じような価値観をもたされる。作られた流行により最新型と同じ車に乗り、同じ服を着せられている。

反省と教育

ローレンツの視点で現在の地球上の現象を改めて問い直してみると、我々一般人が普段は至極当然と捉えていることも、「本当にこのままでいいのか？」と考えさせられる。ローレンツの指摘はまさにその点を鋭く突いており、私たち人類の生き方の再考を迫っている。これまで人間がたどってきた道が人間

にとって本当に好ましいものなのかを問う必要がある。

しかし、豊かさを求め、快適な生活を志向する文明人の考え方はいっこうに変わる気配はない。むしろ、ますます危ない方向へ進んでいるように写る。

科学の発達で代表されるように、人類の発展のために研究し、多くの成果を上げてきた努力も、結果的には自分で自分の首を絞める可能性が大である。ローレンツに言わせると、医学の進歩などまさにその典型であろう。人の命を救う、これこそ何事にも変え難い人類にとっての究極の幸せであり、目指すべきものであった。しかし、結果的に人口の増大を招き、今や人類は食糧危機に瀕しつつある。将来を見据え、近視眼的な行動にストップをかけようと努力している人はいるが、その流れを止めることは難しい。このまま進むと、種としての人間の滅亡、すなわち『人間性の解体』が起きるのではないかと心配してしまう。

人間が自分たちの豊かさ・幸せを求め、長い時間をかけて努力した結果の行き着く先が人類の絶滅に

つながっている可能性がある。人間は豊かさや快適さを求める知的な動物ゆえ、またそれを手に入れたことが理由で、それを手放せない。真の豊かさや快適さを科学・工業や経済の発達に置き換えてはいないだろうか。巨額の富を築くことに豊かさを求めてはいないであろうか。正のフィードバックになれた人類は、豊かさの先に爆発的に増大する豊かさを求める飽くなき欲望を止められず、人類の滅亡そのものを迎えるかもしれない。今こそローレンツがいう、負のフィードバックが必要なときである。反省し、人間という生物について考え直す必要がある。

大人を変えることは難しい。教化された結果、一度染みついた考え方は鎧を着た蟹の化石に等しく固い。頼りは子供である。柔軟性のある若い教師が、人類の将来を託して、子供たちの教育に熱心に取り組んで欲しい。教師は専門性ばかりにとらわれず、様々な角度から人間を見る柔軟性が不可欠となる。

(いけだ・かつのり 生涯スポーツ研究室教授)

図書館所蔵ローレンツ作品一覧

『文明化した人間の八つの大罪』と ローレンツの著書で、図書館で所蔵している作品を一覧にしました。興味のある方は、読んでみてください。

書名	請求番号	所在	資料ID
未来は開かれている：アルテンベルク対談：ポパー=シンポジウム記録	104/P81	書庫	18710446
文明化した人間の八つの大罪	140/L88	書庫	07001683
鏡の背面 上・下	140/L88	書庫	07001681-82
行動は進化するか	141.75/L88	書庫	17700340
自然界と人間の運命	361.4/L88	1階開架	19300931
人間性の解体	361.4/L88	書庫	18505957
ソロモンの指環：動物行動学入門	481.78/L88	書庫	18707370
攻撃：悪の自然誌 新装版	481.78/L88	1階開架	18601488
生命は学習なり：わが学問を語る	481.78/L88	書庫	18209450
動物行動学 上・下	481.78/L88	書庫	17804165-66
人イヌにあう	481.78/L88	書庫	07028146
なぜそんなにちばしなのか 上・下	481.78/L88	1階開架	19104299-4300
ローレンツの世界：ハイイロガンの四季	488.6/L88	書庫	18501742

本との出会い

ある田舎読書人の話

小 泉 武 栄

一生を本を読んで過ごした無名の田舎紳士のことを書いておきたい。十年あまり前に亡くなった、伯父・大月文五(私の母の兄)のことである。伯父はたいへんな読書家で、普段は農業に従事していたが、時間が空いたときはいつも本を読んでいた。机の回りに置いた本の重みで、200年以上もたった大きな家の座敷の床が抜けてしまったというエピソードが残っている。

同じ年の頃のいとこたちがいたこともあって、私は子供の頃、よく伯父の家を訪ねたが、そういうとき伯父は読書を中断しておいしいお茶をいれてくれ、それから静かに今読んでいる本の話や若い頃の話をした。その知的な雰囲気が好きで、私は暇をみては伯父の家にでかけたものである。私が大学に入るために上京してからは、帰省したときだけ訪ねるようになったが、さわやかな感じは終生変わらなかった。絶版になって手に入らないという『サミュエル・ジョンソン伝』やジェフリースの『我が心の記』、『野外にて』などを、神田の古書店で探して送ってあげ、喜んでもらったことを、今でもよく覚えている。私の本好きも、間違いなくこの伯父などの血を引いたものである。

伯父は年を取るにつれて品のよい風貌になり、晩年には仙骨すら帯びてきた。もしかしたら悟りの境地に近づいていたのかもしれない。そのせいいか何となく人目を引き、結婚式のような集まりがあると、「あの方はどういう方ですか」などと聞かれることが多くなった。「ただの田舎の親父ですよ」と答えることにしていたが、なんとなく誇らしい感じがしたものである。やましいことを一切せず、ひたすら回りの人のことや公のことを考え続けると、ああいう顔になるのかしれない。

こんな風に書くと、植物のように静かな一生を送ったと誤解されそうだが、けっしてそんなことはない。伯父は田舎ではリーダーとしてかけがえのない人であった。戦後すぐの頃、みんなに本を提供してもらって小さな図書館を作ったり、写真や資料を

集めて集落の歴史、地理などを書物にまとめたりした。またいつも誰かの相談に乗っていた。

私が子供の時分、集落の奥の山にスキー場を作るとい話が持ち上がったことがある。信州は野沢温泉の隣の村であるから、スキー場の適地が多い。産業など何もない村のことであり、皆乗り気になったが、伯父は村の水源地が汚染されることの危険性を説き、計画を撤回させた。自然保護運動などまだ珍しかったときのことで、今になってみるとその先見の明に感謝せざるを得ない。

明治初期につくられた小学校の統廃合の話が出たときにも、若い父親たちに呼びかけてさんざん反対した。しかしこの件では一敗地にまみれ、学校は創立106年目にしてついに廃校となり、別の場所に統合した小学校ができてしまった。私の卒業した小学校でもあるので残念でならないが、伯父は廃校の記念誌に次のような話を寄せている。村のある男が朝っぱらから夫婦げんかをした。腹立ちまぎれに一杯ひっかけようと思ひ、家を飛び出したが、学校の前までやってきて子供たちが楽しそうに遊んでいるのを見て、飲み屋へいくのをやめ、黙って畑へ行って耕し始めたというのである。

子供の頃、母から、山に木を植える人は何十年も先の子孫のことを考えて植えるのだと教わったことがある。伯父の生き方はまさにその通りであった。現在の世の中では伯父のような生き方は痩せ我慢に見えるかもしれない。しかし明治人の気骨というものはやはりこういうものであったに違いない。

(こいずみ・たけえい 地理学研究室教授)

本との出会い

『複合汚染』

中西 史

皆さんは志望大学をどうやって決めましたか？

この大学に来て5年が経ちますが、おりにふれて話を聞くと、「良い先生に出会ったから」という学生さんが多いようです。私の場合は有吉佐和子の『複合汚染』との出会いによって大学を選択し、さらには運命の糸に操られて(ちょっと大袈裟ですが)、この文章を書いているような気がします。

私は小さい頃から本と生き物が好きでしたが、何故か高校では物理と化学を選択しているという、何ともちぐはぐなことをしていました。そんなものですから、多くの同級生の志望校が決まった時点で、私はまだ、理学部か農学部か？医学部か獣医学部か？はたまた文学部も捨てがたい、とどうにもならない状態でした。そんなとき父親の本棚から手に取ったのが『複合汚染』でした。

『複合汚染』

この本は作者である有吉佐和子の怒りが、最初から最後まで満ち満ちている、小説というにはあまりに型破りな本です。何に対する怒りか？自分たちの体が、周囲の自然が、人間が生み出し、利用した様々な化学物質によって汚染されているという事実。その現状を生み出している企業や生産者団体、「因果関係が実証できないから」と手をこまねいている行政官や学者たち、そしてあまりに関心な国民。読み進むうちに、いつの間にか私も「こんな事があって良いものか」と息巻いて、次の年の春には環境生物学コースを持つ大学に入っていました。

大学時代

大学に入って3年間は、環境問題に関心を持つ仲間と、ごみ焼却場の取材や、河川の水質調査を行ったり、市民団体の代表者や社会学者を集めたシンポジウムを開いたり、と『複合汚染』一色の生活でした。しかしながら、自分自身の毎日の生活が、ことごとく環境汚染に結びついてしまう、というジレンマに悩み、とうとう何をすればよいのか分からなく

なっていました。

今考えればもっと選択肢はあったと思うのですが、その時の私は「まずは生物というものを基本から理解したい」と考え、基礎生物学コースの植物生理学の研究室に入りました。私たち動物と違い、環境が悪くなっ

たからといって別の場所に移動することのできない植物たちが、どのような知恵を働かせて生きているか、ということに夢中になって研究を行い、気が付けば東京学芸大学で生物を教えるようになっていました。

現在

今、少し周囲を見回す余裕ができてくると、以前発ガン性物質、催奇性物質として世間を騒がせていたPCBやダイオキシンが、「環境ホルモン(内分泌攪乱物質)」と名前を変えて、私たちの生活を脅かしていることに気づきます。多くの社会的な努力が行われてきたとはいえ、基本的な状況は何も変わっていないんだ、という思いとともに、問題がより複雑になっていることに胸が締めつけられます。今の自分に何ができるだろう、と考えているところにこの原稿の依頼が来ました。何の因果か、と不思議な気がします。皆さんの中に、一人の人間を振り回したこの本に少しでも興味を持たれた方がいましたら、是非読んでみてください。今でも文庫本で売られているようです。「自然科学」とは全く縁の無かった作者が、自分の身の回りで起こりつつあることを何とか理解しようと奔走する姿は、読み物としてもおもしろく、また、「環境問題」に興味を持っている人にとっては、この25年間で日本の何が変わったのか、変わらなかったのかを考える良い機会になるのではないかと思います。

(なかにし・ふみ 生物学研究室講師)

導入データベースガイド

電子ジャーナル

の特徴とその利用法

図書館では、今年度から本格的に電子ジャーナルの提供を開始しました。すでに東京学芸大学の構内(小金井地区)からは、図書館のホームページを通して2000タイトル以上の電子ジャーナルにアクセスすることができます。

電子ジャーナルは従来のプリント版の雑誌の単なる延長ではなく、情報の収集と利用のあり方を根本的に変えてしまう力を持った新しいメディアであるといえます。その特色を知り、効果的に活用していくことは、今後の大学での研究と学習において不可欠であるといえるでしょう。

そこで今回は、本学における電子ジャーナルの現状と実際の利用方法について、本学の教職員・学生の皆様に基本的なことを知っていただくために、この稿にまとめました。

電子ジャーナルのメリット

電子ジャーナルは、従来のプリント版の雑誌を電子化し、コンピュータのディスプレイ上で読めるようにしたのですが、デジタル技術を活用することにより、従来の雑誌と比較して以下のような大きなメリットを持つこととなりました。

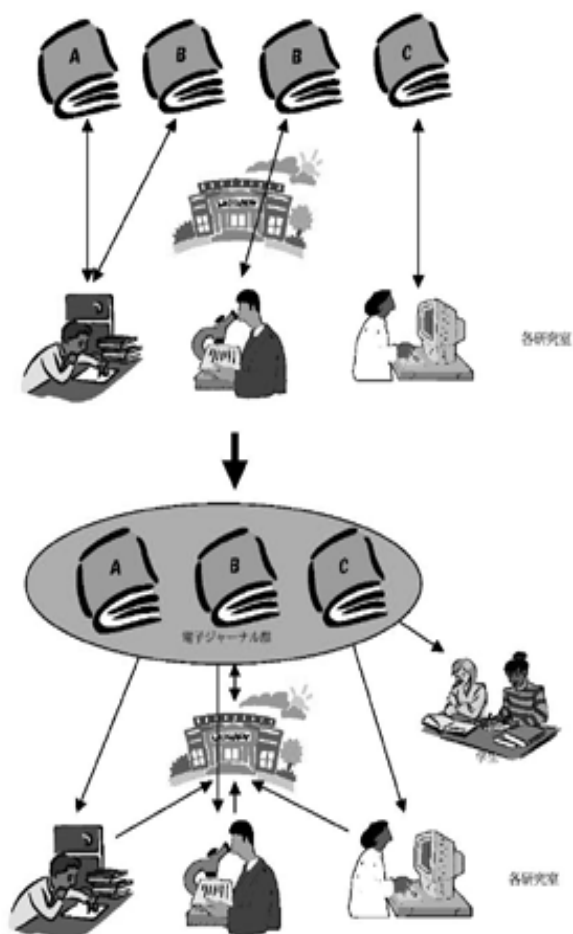
- ・ 学内のインターネット端末からであれば、いつでも自分の見たい雑誌を見ることができる。
- ・ ジャーナルに掲載されている論文の検索や、論文本文に対してのフルテキスト検索が行える。
- ・ 出版社系の電子ジャーナルサービスにおいては、事故による遅延や未着などがない上、プリント版の雑誌よりも早く記事や論文を読むことができる。
- ・ 電子ジャーナルの引用文献からその被引用文献をその場で読むことができる。世界の主要な出版社が協定を結ぶことにより、異なる出版社間の論文リンクも急速に拡大している。
- ・ あらかじめ登録したデータに基づき、雑誌の最新号や特定のキーワードに合致する論文の情報等を自動的にメール配信してくれる機能がある(アラート機能)。

電子ジャーナルの持つこのようなさまざまな機能を活用することにより、研究過程での情報の探索と収集の活動を大幅に効率化でき、また、質的にもレベルアップが可能になると考えられます。

研究室単位から大学単位へ

プリント版から電子ジャーナルへの移行に伴う大きな変化として、雑誌の購読形態が個々のタイトルを選択・購入するという形式から、大学やキャンパスの単位でその出版社の全タイトルや分野別ごとの一括購読を行うという形式に移ってきていることが挙げられます。複数の大学が共同で交渉することにより、閲覧可能なタイトル数や価格等の点で、単独で契約するよりも有利な条件を設定できるコンソーシアム契約方式も進展してきました。本学でもこの方式を活用することにより、学術雑誌の価格の高騰により購読数が減少する一方だった状況から転じるのが可能となりました。

プリント版から電子ジャーナルへ



ただし、現時点で多くの電子ジャーナルの出版社は、プリント版雑誌の購読が減らないように電子ジャーナルの購読価格の設定をプリント版購読誌の契約額に基づいて行っている点に注意する必要があります。これは過渡期の現象であり、近い将来にはプリント版に左右されない電子版独自の価格体系が確立されていくと思いますが、電子ジャーナルの購入にあたっては、プリント版にはなかった複雑な要素が絡んでくることは確かです。どのような費用配分でどのような方式で雑誌を購入すればもっとも有利なのかを、常に見極めておく必要があります。

今後、雑誌の選択・購入は個々の研究室の判断のみで行うのではなく、大学全体として政策的に行っていかなければならない状況になってきているといえるでしょう。

東京学芸大学から利用できる 電子ジャーナルサービス

東京学芸大学からは現在、2000 タイトル以上の電子ジャーナルにアクセスすることができます。の中には、出版社やアグリゲータ（複数の出版社の電子ジャーナルを集めて、同一のインターフェースから提供する仲介業者）による総合的な電子ジャーナルサービス、個々のタイトルごとに購入しているもの、プリント版の付録としてついてくるもの、無料で公開されているものなど、さまざまな形態のものがあります。

(1) サイエンス・ダイレクト

サイエンス・ダイレクトはオランダの巨大学術出版社であるエルゼビア・サイエンス社が提供している電子ジャーナルサービスです。

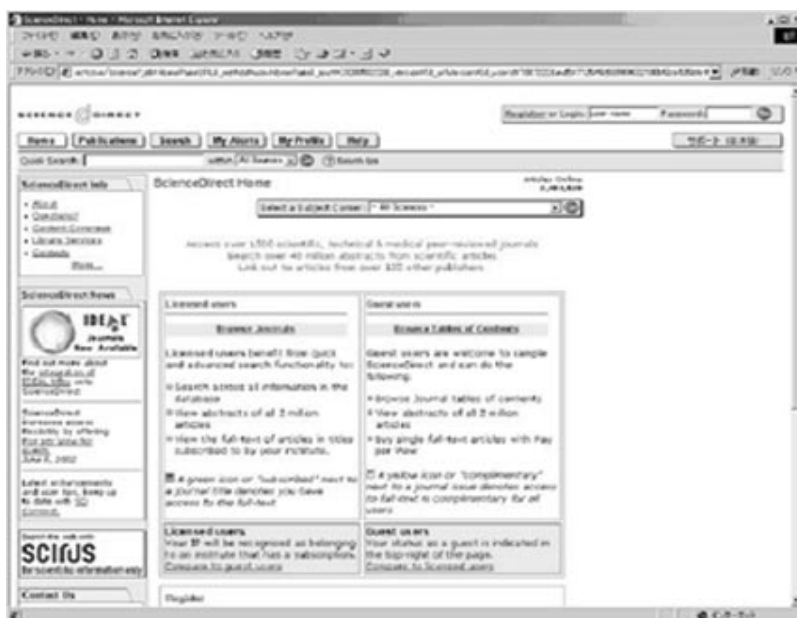
サイエンス・ダイレクトの導入にあたっては、国立大学図書館協議会によるコンソーシアム契約を行っています。そのため、本学がプリント版を購読しているもののみではなく、他の国立大学が購読しているものも含めて、現在 879 タイトルのジャーナルの本文（1998 年以降）を見ることができます（本文が見られない論文についても、抄録まではアクセスできます。）。収録タイトルは、エルゼビア社及び関連出版社のジャーナルが中心ですが、自然科学・技術、医学、社会科学、心理学など、広範囲に渡っています。

サイエンス・ダイレクトの特徴は、閲覧可能なタイトル数の多さという点だけでなく、その充実した検索機能やアラート機能にあります。主な特徴をあげると次のとおりです。

- ・サイエンス・ダイレクトに含まれる 240 万以上の論文の書誌検索・フルテキスト検索が可能。
- ・ナビゲータ機能により、他のデータベースとの一括検索が可能。現在、一括検索が可能なデータベースは MEDLINE。
- ・ユーザー登録を行うことにより、豊富なアラート機能（キーワード検索、ジャーナル最新号、引用論文の各アラート）とパーソナライズ機能（検索式の保存、お気に入り雑誌リスト）を利用できる。
- ・校正刷りの段階の論文を雑誌の出版に先駆けて見ることができる。

エルゼビア・サイエンス社のサービスはかなり高度なものです。しかし、その分高価であり、元々大学等の研究者が執筆した論文を、多額のお金を払って大学が買い戻さなければならないという点は大きな矛盾でもあります。学術出版界では、現在、巨大化と寡占化がどんどん進行しており、エルゼビア社も最近、著名な学術出版社であるアカデミック・プレス社を吸収しました。このような状況に対しての大学や各研究者の対応のあり方も大きな課題となっています。

サイエンス・ダイレクトトップページ



(2) EBSCOhost

EBSCOhostは、多数の出版社の電子ジャーナルを集めて提供しているアグリゲータ系のサービスです。本学で導入しているのは、教育学関連のジャーナル500タイトル以上から全文を収録しているProfessional Development Collection (PDC)と、これと連携させるために導入しているERIC等の二次情報データベースです。

アグリゲータによるサービスは、複数の出版社の電子ジャーナルを同一のインターフェースで利用できることが特徴ですが、雑誌提供元の各出版社の方針により、フルテキストが収録されるまでに3～12か月程度のタイムラグがある場合があります。詳しくはホームページに掲載されている収録タイトルリストをご覧ください。

PDCとERICは連携利用が可能で、ERICの検索結果から直接にフルテキストを表示させることができます。論文検索は書誌事項及び抄録中のキーワードから行え、サイエンス・ダイレクトと同様、ユーザー登録によりアラート機能を利用することができます。

(3) LINK

LINKは、ドイツの学術出版社Springerによる電子ジャーナルサービスです。Springer及び関連出版社が刊行している約400タイトル以上の電子ジャーナルを見ることができます。自然科学や数学等の分野の雑誌が中心であり、論文検索(書誌検索・フルテキスト検索)やアラート機能の利用が可能です。

上記に挙げたものの他にも、国立情報学研究所が提供しているOxford University Pressの電子ジャーナルサービスを始めとして、本学から閲覧できる電子ジャーナルは多数あります。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

図書館ホームページからの利用法

附属図書館Webサイトのトップページ(<http://library.u-gakugei.ac.jp>)「データベースサービス」メニューの「電子ジャーナル」をクリックすると、東京学芸大学から電子ジャーナルにアクセスするためのページが表示されます。

このページでは、各電子ジャーナルの提供元サイトに対するリンクの他、本学から利用できる全電子ジャーナルの雑誌タイトルによる検索やアルファベット順の一覧表示を行えるツールが用意されています。

このツールを利用すれば、各提供元に個別にアクセスせずに、本学から利用できる電子ジャーナルをまとめて一覧できます。検索結果から各ジャーナルのページをダイレクトに表示することもできますので、ご活用ください。

ただし、各電子ジャーナルサービスの提供しているアラートなどの個別のサービスや論文単位での検索は、各サイトにアクセスしないと利用できません。

電子ジャーナル一覧検索



おわりに

電子ジャーナルには課題も残されています。バックナンバーの保存や利用をどうするか、文献複写の依頼への対応をどうするか、といったようなことですが、これらの問題も電子ジャーナルがますます普及するにつれて、いろいろな方法で解決されていくのではないのでしょうか。

東京学芸大学においても今年度から電子ジャーナルの利用環境がだいぶ整備されましたが、これは全国レベルで見て決して進んでいるとはいえません。資金潤沢で電子ジャーナルに対する予算措置がきちんとなされている大学と比較すると、明らかな情報格差が生じはじめています。それどころか、本学では今と同等のレベルのサービスが持続できるかどうかさえ、不安定な状態にあるといえます。

今後は、大学としての明確な情報政策を策定し、電子ジャーナルに対する予算の安定した確保が必要になってきます。皆様のご理解・ご協力をお願いします。
(村田 輝 情報管理課目録情報係長)

お知らせコーナー

平成 14 年度文献の探し方オリエンテーション（初級・中級）後期

平成 14 年度の文献の探し方オリエンテーションを 10・11 月に以下のとおり開催します。

< 初級 >

読みたい図書や雑誌が図書館の何処にあるのか、当館にない資料を何処の図書館で所蔵しているのかを探す、所蔵調査を中心としたコースです。

< 中級 >

専門の研究テーマについて、いままでにどんな論文が書かれているのかを調べる主題調査を中心としたコースです。

	火	水	木	金
10月		16日<初級>	17日<初級>	18日<初級>
		23日<中級>	24日<中級>	25日<中級>
	29日<中級>	30日<中級>	31日<中級>	
11月		6日<初級>	7日<初級>	8日<初級>
	12日<中級>	13日<中級>	14日<中級>	15日<中級>
	19日<初級>	20日<初級>	21日<初級>	22日<初級>
	26日<中級>	27日<中級>	28日<中級>	29日<中級>

どちらも 60 分程度で文献の入手法についてもご説明します。

後期は 10 月 16 日（水）から 11 月 29 日（金）までの 24 回です。各日とも 10 時 30 分からの実施ですが、日によって内容が異なりますのでご注意ください。

なお、各回とも予約制ですので、図書館 2 階の参考調査カウンター（TEL042-329-7223）に申し込みをしてください。

また、4 月の図書館オリエンテーションに参加していない人、館内ツアーに参加して新しい発見をしてみませんか？図書館 2 階の参考調査カウンター（TEL042-329-7223）に申し込みをしてください。

ゴミの分別回収に協力してください

図書館ではこれまで閲覧室の各所に設置していた小型のゴミ箱を撤去しました。代わりに、可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源物など分別回収できるよう、1 階と 2 階の各 1 個所に数種類の大型ゴミ箱を設置しました。

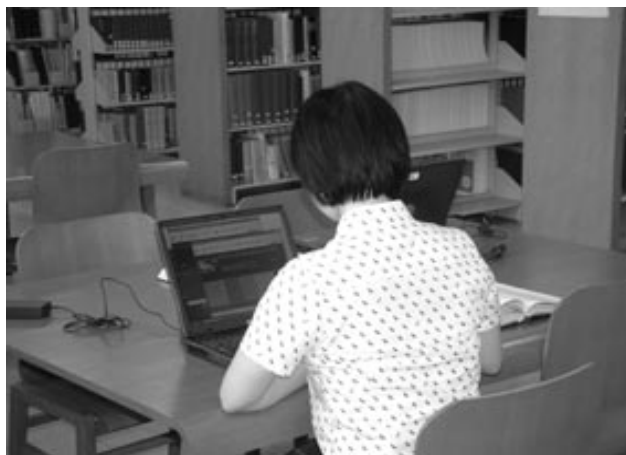
分別回収を実施することにより、資源物はリサイクルされ、ゴミの減量化を図ることができます。また焼却する時の二酸化炭素や窒素酸化物も減らすことができます。

学芸大学では全学を挙げてゴミの分別回収を実施してきています。図書館内においてもゴミの分別回収にご協力ください。

ノートパソコンの貸出をしています

図書館では平日館内で利用できるノートパソコンの貸出をしています。

Microsoft Office やブラウザなど基本的なソフトが搭載されていて、直ぐにインターネットに接続できます。また、昨年度末には無線LAN (Local Area Network)が設置されました。無線LANを利用することで、インターネットへの接続が可能になり、当館の所蔵する資料だけでなくインターネット上の情報を収集しながら、レポートや論文を作成していくこともできるようになりました。なお、LANに接続するために必要な手続きや接続方法などは情報処理センターの発行する『東京学芸大学情報処理センター利用の手引き』を参照してください。貸出手続、貸出時間等のお問い合わせは図書館2階参考調査カウンターまでお願いします。



国立国会図書館が新しくなります

国立国会図書館は国内出版物を収集している唯一の国立図書館です。満18歳以上の方であれば、誰でも入館・利用できます。また、本学図書館を窓口にして、文献のコピーを取り寄せたり、本を借りることもできます。ただし、本学図書館で所蔵していない場合のみ利用するようにしてください。

平成14年に入って、上野にある国際子ども図書館の全面開館と、関西文化学術研究都市に置く関西館の開館により、東京本館と合わせて3施設で運用されることとなります。これに伴い、図書館資料はこの3施設に分散して配置されます。その準備のため、関係資料の利用が次のとおり一部休止されますので、利用にあたってはご注意ください。

- ・洋雑誌、アジア資料 平成14年4月1日～10月6日
- ・科学技術資料の一部、文部省科学省科学研究費補助金研究成果報告書等 平成14年5月1日～10月6日

また、平成14年10月の関西館開館を機に、ホームページが一新され、インターネット上のサービス窓口としての機能が強化される予定です。

例えば、国立国会図書館蔵書をインターネット上で検索するための蔵書目録(現行のWeb-OPAC)が、収録範囲の大幅拡充により、明治から現在までの和図書を一括して検索できるようになります。また、雑誌、新聞といった逐次刊行物の目録が新たに公開されることになり、和逐次刊行物約11万件、洋逐次刊行物約5万件がインターネットで検索できるようになります。さらに、みなさんもお馴染みの「雑誌記事索引」も昭和23年からの約500万件がインターネットで検索できるようになります。そのほか、最近の国内博士論文約19万件の目録も提供することです。これらのデータベースについては、概要がわかりしだい、お知らせします。

詳しくは国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) をご覧ください。

平成14年度基本的学術図書購入リスト

平成14年度に購入する基本的学術図書が決定しましたのでお知らせします。

基本的学術図書は、本学の教育・研究上基本的に必要な資料として附属図書館委員会によって選定されるもので、今年度は次の図書等を購入する予定です。順次図書館に収蔵されますので、ご活用ください。

1. Handbook of social psychology. 4vols.
2. Stange, Alfred : Deutsche malerei der Gotik 1934-1961. 11vols.
3. Methods in Enzymology. Vols.341-350
4. Enciclopedia dell ' arte Medievale. 12vols.
5. 社会・生涯教育文献集 I～VI 全60巻
6. Acta orientalia. Vols.1-56
7. 東京大学イラン・イラク遺跡調査団報告 1～20
8. History of Education 15th-20th Century Unit6. Nos.6251-6875(マイクロフィッシュ)
9. 明治の讀賣新聞(CD-ROM)
10. 教育関係雑誌目次集成 7～14巻
11. 光緒朝 批奏摺 全120冊
12. 米国 ProQuest 学位論文(材料力学分野) 117点

平成14年度附属図書館委員会名簿

所属	学科名(研究室)	職名	氏名	任期
図書館	地域研究学科(地域)	館長	鷲山恭彦	H13.4.1～15.3.31
第一部	地域研究学科(地域)	助教授	岩田重則	14.4.1～16.3.31
	人文科学科(歴史学)	講師	及川英二郎	13.4.1～15.3.31
第二部	保健管理センター	助教授	大西健	14.4.1～16.3.31
	心理学科(教育心理学)	助教授	成田健一	13.4.1～14.7.31
	心理学科(教育心理学)	助教授	糸井尚子	14.8.1～15.3.31
第三部	理科教育学科(理科教育学)	教授	下條隆嗣	14.4.1～16.3.31
	地学科(地学)	教授	本間久英	13.4.1～15.3.31
第四部	美術学科(美術)	助教授	秋山聰	14.4.1～16.3.31
	音楽学科(音楽)	助教授	遠藤徹	13.4.1～15.3.31
図書館学関係	教育学科(生涯教育)	教授	山口源治郎	14.4.1～16.3.31

平成14年度後期図書館暦（10月～3月）

日	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日
1	火	金	日	水	土	土	1
2	水	土	月	木	日	日	2
3	木	日	火	金	月	月	3
4	金	月	水	土	火	火	4
5	土	火	木	日	水	水	5
6	日	水	金	月	木	木	6
7	月	木	土	火	金	金	7
8	火	金	日	水	土	土	8
9	水	土	月	木	日	日	9
10	木	日	火	金	月	月	10
11	金	月	水	土	火	火	11
12	土	火	木	日	水	水	12
13	日	水	金	月	木	木	13
14	月	木	土	火	金	金	14
15	火	金	日	水	土	土	15
16	水	土	月	木	日	日	16
17	木	日	火	金	月	月	17
18	金	月	水	土	火	火	18
19	土	火	木	日	水	水	19
20	日	水	金	月	木	木	20
21	月	木	土	火	金	金	21
22	火	金	日	水	土	土	22
23	水	土	月	木	日	日	23
24	木	日	火	金	月	月	24
25	金	月	水	土	火	火	25
26	土	火	木	日	水	水	26
27	日	水	金	月	木	木	27
28	月	木	土	火	金	金	28
29	火	金	日	水	土	土	29
30	水	土	月	木	日	日	30
31	木	日	火	金	月	月	31

* 臨時休館日については、その都度掲示します。

授業期 平日（月～金）開館時間 9:00～22:00	休業期 平日（月～金）開館時間 9:00～17:00
土・日・休日 開館時間10:30～16:30	

編集発行 東京学芸大学附属図書館
 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
 電話 042-329-7223 FAX 042-329-7226
 URL <http://library.u-gakugei.ac.jp/>